

商学部協定校留学 帰国報告書

商学部 3年11組 金持秀 (キム・チス)



1. 出発前の準備

留学の目的としては、将来、グローバルな仕事につきたいと思い、国際色豊かなところで勉強するというものでした。さらに、語学の習得はもちろん商学の知識も学べるビジネス・スクールなのでより充実した交換留学生活になることを期待しました。

ビザは5月のGW明けから少しずつ準備して7月初旬には取得しました。ビザの取得の手続きは求められる書類も多く、準備することも多いですが言われる通り準備しておけば大丈夫です。外国語能力については、フランス語はほとんど喋れず会話が少しできるぐらいでしたが、ホームステイ先で学んでいけば大丈夫だろうと気楽に考えました。英語は、今までTOEFLやTOEICで勉強したことを元にして相手に自分の意見を伝えることができるなら大丈夫だと思います。出発前に明大サポートで保険に加入しなければならぬのですが、一番安いもので大丈夫だと思います。それから、日本から直接持っていく荷物以外は、船便で送りました。船便の方が安いですし、秋冬物の洋服はすぐには要らないので、効率的だと思います。時間は日本から送ると約2ヶ月かかりました。

フランスへ到着すると、(到着する場所にもよります) 'WELLCOME TEAM'といってフランス人の仲間が空港や駅まで迎えにきてくれます。私は、レンヌ駅までTGV乗ったのでホームステイ先の家族が迎えにきてくれましたが、ホームステイじゃない場合にも、レンヌ空港やレンヌ駅までWELLCOME TEAMが迎えにきてくれますので事前に申し込んでおけば大丈夫です。みんな英語はペラペラなので心配することありません！

2. 協定校の手続き

協定校の手続きは、学校から手続きのメールがくるので、それに対応していけばいいと思います。そして、留学前に協定校で履修する授業の科目申請をするので、興味のある授業を3つから多くて6つぐらい申し込めばいいと思います。(授業にもよりますが、一つの授業が3時間かかるものがあったり、授業を多く入れすぎるとグループワークの日程が合わなかったりするので5つぐらいが最適だと思います。)

3. 宿舎と日常生活

私はフランス語の習得のためにホームステイを選びました。私以外の多くの友達もSTUDIO（日本でいうアパート）を借りるか、友達とシェアするFLATのほうが多かったです。多くの国籍の友達と生活したいのであれば、FLATをおすすめします。中国やフランス人、アメリカ、ドイツなど様々な国々からきた留学生たちとキッチンを共有したりすることで、仲よくなる機会がたくさんあります。私の場合、ホストファミリーと住んでいたのもとても家族的な雰囲気が感じられ、本当にフランスにいてることを実感しました。フランス語を早く習得したい人や、フランスの生活に馴染んでいきたいと思う人にはホームステイをおすすめします。そして住む場所についてですが、KENNEDY駅とVille Jean Universite駅の2つを特におすすめします。学校までバスで5分の距離ですし、なにより学生にとって必要なコピー機がたくさん置いてあったり、スーパーにも行きやすいので、この二つの地域を選ぶといいと思います。



(Madame.Derrenと私)

4. 協定校のカリキュラム・履修した授業

協定校には面白い授業がたくさんあります。特に、広告論という授業は、様々な国々から集まった留学生たちと一つのグループになって新しい広告を作るプロジェクトに取り組みました。そして、試験内容も自分が一から企画し新しい広告を作るという内容だったので、とても楽しく広告の理論から広告が作られるプロセスまで学ぶことができます。これ以外にも、HR(Human resource)、CSR、Strategic Management、Accounting などがあり、フランス語やフランスの文化授業もあります。フランス語の授業はレベルごとにクラスが分けられます。そして、フランス文化授業は、フランス語のレベルが高い人はフランス語で、でない人は英語で受けられます。フランス語に自信がない人は、英語で行う授業の方が理解しやすく、楽しく参加できると思います。授業の雰囲気は、先生によっても違いますがフランス人の中に留学生が3人ぐらい入る授業もあれば、全て交換留学生たちのみで受ける授業もあります。フランス人たちと履修する授業では、フランス人の友達を作る機会にもなりますし、学校のことを詳しく教えてもらえるので、積極的に声かけることが大事だと思います。それから、留学生たちのみで受ける授業は、一つのグループの6人がみんな違う国から集まっているので様々な価値観に触れることができます。

5. 留学の結果

私が今まで目標にしていたことが実現できたので、留学できたことについて大満足しています。その理由として、いくつかの思い出があります。

一つ目、フランス語の勉強を楽しくできたことです。私の場合、ホストファミリーが英語が全然できなかつたのでより私が必死にフランス語で伝えようとしてしました。通じないときは辞書を使ったり、黒板に書きながらお互いのことを理解してきました。そうすることでよりお互いのことがわかり、深い絆を作ることができたと思います。

二つ目、美味しい料理を食べることができたことです。フランスというと料理を期待しますが、実際にマダムの料理がとても美味しかったのでデザートやフランス家庭料理を作ってもらったり、一緒につくることでよりフランスの文化を楽しむことができたと思います。そして、レンヌという町は多くの学生が住んでいる町で、物価も安く、行われるイベントがたくさんあります。例えば、クリスマスにはクリスマスマーケットが開催されたり、年末にはきれいなイルミネーションが楽しめる場が増えるので、家に引きこもらず外にでて楽しむことをオススメします。こういった情報は、新聞に載っているので、ぜひ見つけて参考にしてください。

三つ目、豊富な食材料をあげ私が住んでいた場所は、中心街に行きやすかつたため、毎週土曜日の朝9時から開かれるMarche（市場）に行って野菜や海鮮を買って友達と料理して食べていました。Carrefour（フランスの有名なスーパー）で買うより新鮮で安いので果物や野菜はいつも買いだめをしてました。

四つ目、レンヌはパリからTGVで2時間ぐらい離れています。3週間前にチケットを買っておくと学生割引も含め、片道で20ユーロでいけます。非常にお得だと思うので、週末を利用してフランスの様々な地域に出かけてみることをオススメします。

五つ目、レンヌ商科大学の食堂は値段が高く、種類も少なかつたので、多くのひとがRENNES 1大学の食堂を利用します。そこは、バスで5分ぐらい離れており、3.10ユーロで昼ごはんを食べることができます。その質がとても高く、毎日種類が変わるので毎日学生でいっぱいです。そして、レンヌ商科大学とは雰囲気が違うフランスの大学生が多いので、機会があれば声をかけたり友達をつくってみるのもいいと思います。

6. 帰国準備と帰国後の手続き

現地での帰国手続きは特にありません。使っていた携帯電話や銀行を解約するぐらいで、レンヌ商科大学から帰国する時期になるとメールで知らせてくれるので問題ありません。荷物に関してですが、フランスからの船便はなかつたので、空輸で送りました。



7. 商学部学生へのメッセージ

私は韓国からの留学生ですが、フランス留学に挑戦しました。それは、困難なことに常に挑戦し続ける人間になりたいという目標があったからです。そして満足のいく成果をあげることができました。

最初、レンヌ商科大学のことを知ったときは私にとって夢のような話でした。語学に自信もなく、経済的にも余裕がなかったので、実現できるか不安でいっぱいでした。しかし、目標に対して逃げることをせずに、立ち向かっていきました。授業では、上級フランス語を履修し、留学資金のためにバイトを掛け持ちして、フランスへ行くことだけを考えました。その結果、フランス留学が実現でき、様々な国籍の友人も増え、一生忘れられない思い出を作ることができました。皆さんも、ぜひこの制度を積極的に活用して、地球を舞台として挑戦してみてください。事務室の方々や先生たちには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

